本書の特色

固有名詞が判明している女たちを主に約一万二〇〇〇人を紹介！

天正期（一五七〇年頃）以降に生まれ、大正期（一九一〇年頃）までに没した、主として江戸期に教育を受けたと考えられる女たちを収録。天皇、公家、尼僧、武家、農民、町人や遊女、瞽女ほか、政治や教育分野などでも活動した女たちの生没年、姓名、雅号、院号、墓所などを判明できる限り列記。

都道府県別・五〇音順に配列、表現作品なども掲載

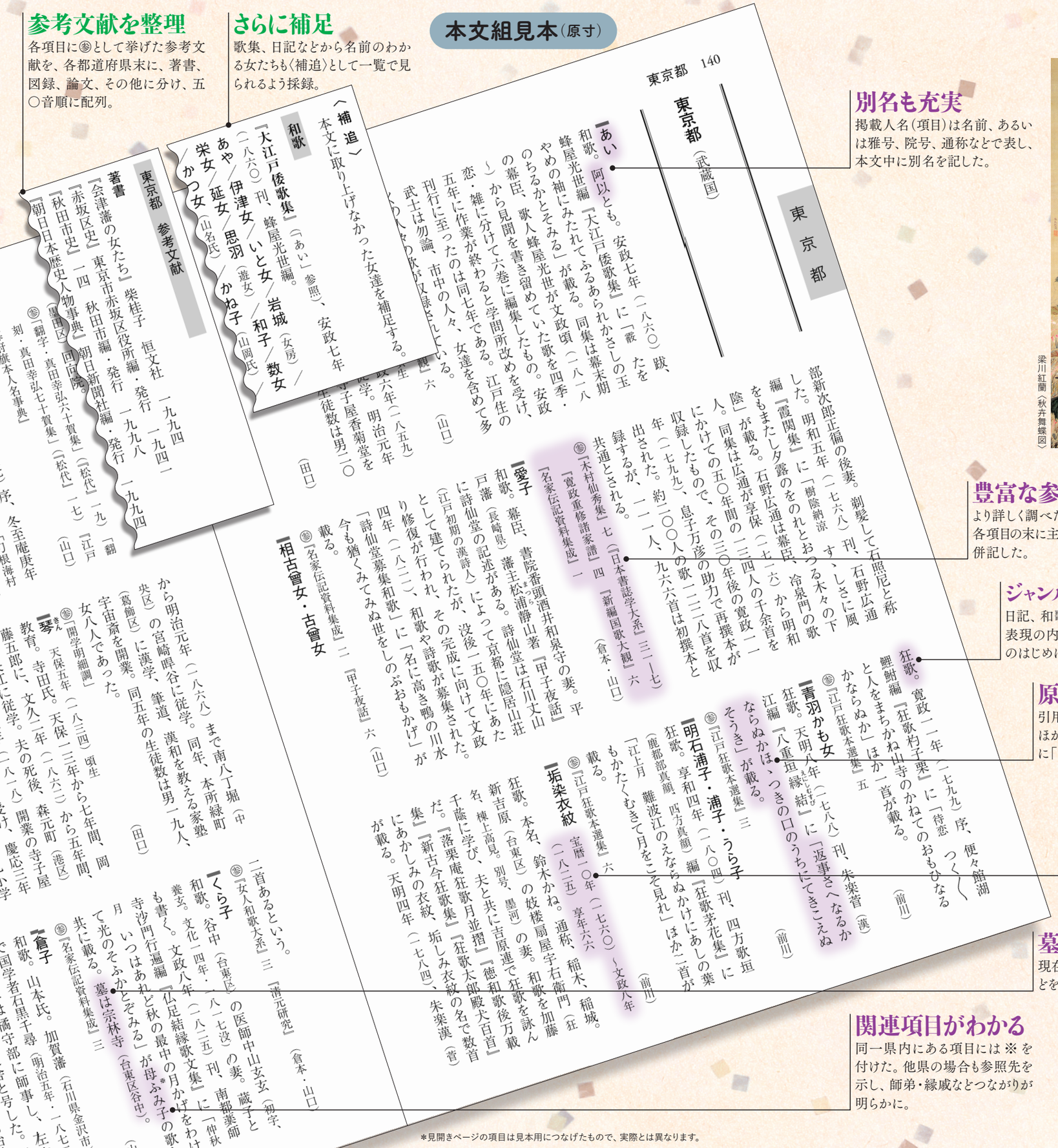
各人の行動や人生を時系列にそって描き、できる限り年代も入れ、表現した作品（日記、和歌、漢詩、俳諧、訓戒書、随筆、物語、紀行文など）あるいは作品名（書画工芸など）も紹介。なお、原則として、既婚者は婚家の都道府県に収録。

きれいなカラー口絵、参考文献も充実

全国各地の図書館や史料館はもとより、個人が所蔵する史料などを三〇年以上かけて調査収集。原典から日記や俳諧などの作品を引用し、その史料や参考文献を項目ごとに併載。また、口絵には多彩なジャンルから選んだ七〇点の作品を収録。

梁川紅蘭〈秋卉舞蝶図〉

本文組見本（原寸）



東京都　140

東京都（武蔵国）

東京都

〈補追〉
本文に取り上げなかった女達を補足する。

和歌

『大江戸倭歌集』（「あい」参照）、安政七年（一八六〇）刊、蜂屋光世編。
あや／伊津女／いと女／岩城（女房）／和子／数女／栄女／延女／思羽（遊女）／かね子（山岡氏）／かつ女（山名氏）

東京都　参考文献

著書
『会津藩の女たち』柴桂子　恒文社　一九九四
『赤坂区史』一四　東京市赤坂区役所編・発行　一九四一
『秋田市史』　秋田市編・発行　一九九八
『朝日日本歷史人物事典』（墨田区）回向院。朝日新聞社編・発行　一九九四
参「翻字・真田幸弘六十賀集」（『松代』一九）『翻刻・真田幸弘七十賀集』（『松代』一七）『江戸時代藩士人名事典』

別名も充実
掲載人名（項目）は名前、あるいは雅号、院号、通称などで表し、本文中に別名を記した。

豊富な参考文献
より詳しく調べたい方のために、各項目の末に主な参考文献のみ併記した。

ジャンルが一目瞭然
日記、和歌、俳諧、画など、自己表現の内容がわかるよう各項目のはじめにジャンルを記載。

原典から引用
引用した日記・和歌・俳諧・狂歌ほかは、原則として、原文に忠実に「　」で記した。

活動時期を知る
生年、没年および享年を判明できる限り記載。

墓所も明記
現在の地名を記載。墓所巡りなどを楽しみたい方にもおすすめ。

関連項目がわかる
同一県内にある項目には※を付けた。他県の場合も参照先を示し、師弟・縁戚などつながりが明らかに。

参考文献を整理
各項目に㊂として挙げた参考文献を、各都道府県末に、著書、図録、論文、その他に分け、五〇音順に配列。

さらに補足
歌集、日記などから名前のわかる女たちも〈補追〉として一覧で見られるよう採録。

＊見開きページの項目は見本用につなげたもので、実際とは異なります。

推薦のことば

（50音順・敬称略）

田中優子◉たなか・ゆうこ
法政大学総長／江戸文化研究者

豊かな表現力で“日本文化”を育てた

万葉の時代からずっと、日本の女性たちは表現に生き、ときに偉大な傑作を残した。江戸時代はその活動がないかのように見えるが、文学、書画、浮世絵、芸能、そして諸分野の職人として生きていた。この事典からは、全国に拡がる江戸期の女性たちが、あらゆる表現を通して日本文化を受け継いでいた様子が目の前に見える。圧巻である。近代文学も女性解放も、この流れの先に出現したのである。

藪田 貫◉やぶた・ゆたか
関西大学文学部教授（日本近世史）／兵庫県立歴史博物館館長

日本近世の女性に光を見出す

1980年代以降、さまざまな固有名詞を持つ女性たちが見出され、その主体性が顕わになってきた。自己の意思などなく文字の読み書きもできなかったと考えられてきた江戸期の女性観を払拭するためにも、彼女たちの思想、文化、生き方を学ぶことは、現代および未来の女性の、そして人間の生き方に大きな示唆を与えるはずだ。本事典は、政治・経済中心の、主に男性を中心とした近世史研究の幅を広げ、文化史研究にも重要な役割を果たすだろう。まさに、新たな「近世女性史」の幕開けである。